

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡県清水区西久保1-13-26		
自己評価作成日	令和6年 1 月 26 日	評価結果市町村受理日	令和6年 2 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 2 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春に新型コロナ感染が蔓延し施設内療養となり職員の感染蔓延防止、感染者へのケアに注力し結果感染症への対応策が身につきました。5月からは新型コロナ感染症も5類に引き下げられたこともあり地域の祭事への参加、ご利用者の面会、外出の緩和ができるようになり途切れがちだった遠方のご家族との触れ合いができるようになったことや絆の深まりも増しました。認知症の人にも希望を持って暮らせるよう1人ひとりの持っている力を表せる場を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は外観含めて明るく清潔感がある。玄関ポーチは広く開放的で、中庭の草花から季節を感じることができる。利用者への継続的な支援として、回想法を取り入れた音楽療法を行っている。音楽が利用者の記憶を呼び戻して発語を促し、過去の生活歴や本人の意向の把握に役立っている。外部評価を毎年受審することは、支援の質の向上を図るうえで当然の事として、毎回ユニット毎に自己評価を行っている。調査員とのヒアリングから改善点などを気付きとして吸収し、支援に反映させている。感染症や非常災害における事業継続計画(BCP)を策定し、現在は自治会長と地域の協定について話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍ではありますが5類に移行してからは地域の祭事が復活、2月3日の節分祭に地域の住民(子供も含む)が豆まきが行われる神社を目指しながらホームに立ち寄ってもらう企画に参加を予定しています。(地域のボランティア達の企画)	理念「認知症になっても住み慣れた町で、人として暮らしたい」に沿った支援方針があり、地域交流や季節感を大切に、音楽療法も取り入れている。できることを日々継続するように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は、長年にわたりボランティアで地の神様が祭られている神社の総代を勤めさせていただいてます。地域の祭事も活発に行われるようになり地域の住民との交流も活発に行われています。	地域神社の総代である法人代表と地域関係者とは、お互いに助け合う関係性にあり密に交流している。事業継続計画(BCP)における地域の協定締結の重要性について、率先して自治会長に相談している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症を取り巻く環境(家庭環境、介護者、サービス内容等)の現状や課題が話し合われることがあります。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加者からご利用者の情報提供をいただくこともあります。	運営推進会議では、感染症、災害対策、地域連携、身体拘束廃止など、実践に則した内容を議題としている。地域包括支援センター、民生委員、地域住民の参加があり、利用者も同席して職員も一緒に話を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年秋から介護相談員が月に1回来所されるようになりました。1時間半近い滞在でケアの実践についてご助言をいただくことがある。現状についてお話しさせていただいている。市の介護保険課には運営推進会議参加を議題を掲示しお誘いはしています。	地域包括支援センター、自治会、民生委員との関係性は、長年の交流とお互いの信頼関係により良好である。市介護保険課との関係性の構築には課題が残されているが、介護相談員の受入れは再開している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修も続けており概ね3カ月に1回基本方針について確認をしながら拘束をしないケアの取り組みを話し合っています。	ミーティングでは、必ず身体拘束について取り上げている。自宅でのネット研修を取り入れるなど、職員のライフワークバランスに配慮した研修機会を与えている。「身体拘束廃止推進指針」をホームページに掲載し、積極的な推進に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画ですが、虐待場面を視聴してもらい研修報告をもらっています。報告の中には自分自身のケアのふり返りをされています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者様がいます。定期的に後見人さんが来所していただき職員から日頃の生活について話を聴きとっていかれます。対応した職員は後見人制度、存在について理解が深まっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今まで1人で契約をしていた独居のご利用者に金銭問題が浮上り契約は身内の介入となりました。契約の時点で介護度の区分変更中でしたので変更になった際の利用料金の説明、今後の入所継続の方策等を話し合いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に運営推進会議への参加を勧めることで外部参加者へ意見や要望を表せる機会を作りました。	面会等で家族から要望を伺い、ミーティングで職員全員に周知している。利用者の健康管理、連絡や報告など、職員のきめ細やかな対応に家族は感謝している。毎月のお便りでも、「心配なことは職員に聞いて下さい」と呼びかけている。	面会制限が緩和されても、思うように面会が叶わない遠方の家族の思いや要望を伺うなど、事業所とコミュニケーションを図る機会を検討することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤者は年2回の賞与が出る際に代表者と面談し意見や提案を聴くようにしています。	正規職員は、年2回の面接で業務の確認や要望等を法人代表に伝えている。パート職員は、管理者と随時話をしている。支援に関する意見等は、利用者個々のケアカンファレンスで記録に残し、職員全員で見直しを行い改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年より介護助手(調理担当、清掃、ご利用者の見守り)を雇い入れることで職員が介護に集中できる環境を整えつつあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を持たない職員に対し認知症基礎研修受講を手伝いました。(ネット環境の知識がないので)以外は、初任者研修受講中の職員がいます。管理者は社会福祉士指導者研修を受講予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設で外部評価調査員研修を受け入れをさせていただきましたところ外部の同業者と交流する機会を持つことができました。運営に役に立つ情報もいただきました。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独居高齢者で大きな転倒を起こしました。日頃より将来は此处で過ごしたい希望はお持ちでしたがご希望されるときには空き部屋がありませんでした。お話を伺い旧知の仲間がいる此处を終の棲家になりたいご希望をかなえられるように空き部屋が出来ましたら優先的に声をかけさせていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	独居高齢者が大きな転倒を起こし1人での暮らしができなくなり姪っさんの介入量が増えました。姪っさんが知り得なかった(金銭的な問題や住居の処分について)事実がわかり困惑されています。お話を伺い社会資源の紹介や入所後に面会される方の情報をお伝えしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	旧知の仲間の居るこの施設への入居まで在宅サービス(ショートステイあるいはロングステイ)を使いお待ちいただきました		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯ものを畳みますが衣類の中でもズボンを畳むのが得意な人は自己流でも好きのように畳んでいただいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	脳梗塞後の不全マヒがあり筋力が低下しないようご家族がマッサージに来所してくださる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年デイサービスを利用し1人での生活ができなくなり入所生活になりましたがデイサービスでイベントがある際は参加していただいています。慣れ親しんだ介護職員、デイサービスのご利用者との再会を喜ばれています。	面会はいつでも可能であるが、入浴や食事、昼寝の時間以外で実施している。年末年始の外出や外泊の希望は、外から感染を持ち込まない対策の下で相談を受けている。美容院で施術していた人は、現在は事業所でできることを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルに気の合うご利用者さんを考慮しています。入所前に旧知の中だった同士で同じテーブル席についていただいてコミュニケーションがとれるように配慮しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	18年近く入所していましたご利用者が老衰で亡くなりました。ご家族との関係は長く山あり谷ありのこの期間励ましあひながら過ぎた日々を地域運営推進会議で語っていただきました。現在入所されているご家族も参加されご家族との交流もできました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の介入に「子供じゃないんだから構わないで！」と拒否されるご利用者がいます。困った時はご利用者から頼ってきますのでプライドを傷つけないようつかず離れずの関係で対応しています。	発語や意思表示、自己決定が困難な利用者であっても、モニタリング項目に含めるなどして「意向や希望を聞き取る」ことは継続すべき支援である。今回の外部評価において、管理者は継続する意味や必要性について再認識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の相談があった際にご家族、ご本人、担当ケアマネ、キーパーソンから生活歴、入所の動機、生活の意向等聞き取りを行うと情報を書面にして職員に回覧、入所中でも新たな情報があると同様な方法で情報把握に努めてもらっています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務メモ、日誌への記入、各勤務帯へと1日3回の引継ぎでご利用者の様子を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングは職員にお願いしています。その中で課題が出てくると毎日の引継ぎの中でアイデアが出ることもありケアに反映されることがあります。	モニタリング項目は、短期目標を踏まえた課題や身体状況の確認など、一人ひとりの現状把握と予防も含めた内容である。職員が項目に関する考えや意見を記入し、管理者が介護計画に反映させて作成している。見直しは適切に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎ時にご利用者の課題が出てきた際に暫定で介護内容の変更があります。暫く変更した内容で介護を行っていただき評価し継続ケアとすることがあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の面会はウイルス感染防止のため個室への出入りは遠慮いただき玄関内をお願いいただいています。しかし居室で休まれていることが多いご利用者への面会は居室内に案内しご利用者に会っていただくようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	金銭問題を抱えたご利用者のキーパーソンが銀行窓口の協力のもとキーパーソン以外は、ご利用者との関りをしないことで経済搾取の予防策をとっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は訪問診療医に嘱託医としてお願いしています。眼科はご家族、ご利用者が納得された病院に通院されています。	協力医が利用者全員の主治医であり、毎月定期往診を受けている。看護師である管理者が、利用者全員の健康状態を把握しており、主治医とは24時間体制で連携している。事業所では、利用者にとって最善となる医療支援を心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師です。日々の食事、排泄状況、バイタルサインチェックを把握、状態に関して介護職員からの報告を受け必要とあれば嘱託医に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は入退院したご利用者はありませんでした		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に契約する時点で重度化した場合のホームの指針をお話しし同意を頂ける方には書面で署名をいただいています。入所前病院からの退院入所のご利用者は退院前カンファレンスで緊急時の搬送先として受け入れをしていただくことになっています。	今年度も4人程の看取り支援を行っている。経験豊富な職員が主導となり、最終的な判断は管理者が行っている。介護と医療、両面の知識と技能を持ち合わせる管理者は、利用者本人、家族、職員にとって心強い存在で、安全と安心を担保できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	擦り傷や切り傷、内出血時の処置については訓練されています。急変時はベッドへの臥床、窒息予防、バイタルサインのチェック、看護職への報告ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の事業継承計画作成が終盤に来ている中で地域自治会長との話し合いが継続中です。	自家発電装置の使用方法的確認と稼働訓練は、職員が毎月交代で実施している。運営推進会議で防災について地域関係者で話し合い、年度末の社内研修に「事業継続計画」を組み込んで職員への周知と理解を図っている。	事業継続計画(BCP)では、他施設との連携や協定締結が課題として残されている。次年度を目途に計画完成を目指し、初動訓練の開始が期待される。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある関係も大事ですが、どのご利用者にも人生の先輩であるということを頭にいられた接し方を心がけています。	研修等が振返りの機会となり、「利用者への尊厳」について再確認している。「業務を優先させてしまい、言葉使いや態度について多いに反省すべき」など、職員のコメントを確認している。着替えなど、ほんの一部でも自分でできることは利用者に任せて、職員は見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中のスケジュールに体操や散歩がありますがご利用者の意向を聴き無理に参加させるようなことはやめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分の部屋でテレビを鑑賞したり新聞を読まれている方もいます。無理に誘うことはせずご利用者の意向を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、入浴時にご自身で衣服を選んでいただいています。適さない衣服が用意された場合はさりげなく交換させていただくこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いはいませんが、洗った食器やお盆をテーブル席にお持ちして拭いていただいています。	食事は全て手作りで、食欲を高める配色や盛り付けに拘っている。手作りヨーグルト(便秘改善)とバナナ(高血圧予防)を昼食に添えている。自己決定や発語を促す観点から、本人のリクエストを聞き取る方法について検討する考えである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂りたがらないご利用者にはジュースや甘い紅茶、ココアと工夫しています。毎月の体重の増減や食べられる量をお出しするようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯間ブラシをつかえないご利用者は職員が介助させていただいています。介入を嫌がり口腔ケアをしないご利用者へは声掛けを繰り返し義歯を外してくださいの時はポリドントにつけさせていただいています。要求があれば次の食事まで浸けさせていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	半日以上トイレに行こうとされないご利用者への声掛けに拒否が強く、失敗も多く床、ズボンの汚染もありました。ご本人は失敗と認めませんでしたので指摘するようなことなせず布パンツから長時間消臭リハパンツへと移行出来るようにしました。居室でご自分で替えられる時はさりげなく汚物の始末は職員がしています。	再アセスメントによる評価や特記事項をもとに対応し、モニタリングで「できていない」場合は、理由を検証して見直しを行っている。時間帯や排泄量に応じて、適切なパット類を組み合わせで適宜調節している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎昼食にヨーグルト+バナナをデザートとして毎日摂っていただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	トイレの介入を拒否されるご利用者に毎日の入浴の声掛けをして履き替えていただけるようにしています。入浴希望をされた際は浴室への出入りを強く拒否しますのでご自身で入っていただくようにしています。	週3回の入浴は、安全最優先で介助している。自分でできるところは見守り、大変な部分は職員が手を添えている。女性の洗身に関しては、羞恥心やハラスメントに配慮して、女性職員に任せる役割を決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアーで過ごされる際はテレビ鑑賞、新聞を読む、パズル遊び、トランプ遊びを1人でされるご利用者、横になりたければ居室に行かれ休まれるご利用者と思いきいのペースで過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの内服薬の効能については個別の介護記録にファイルされ何時でも閲覧できている。薬が変更になった際は引継ぎされることで内容の把握ができるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭に干してある洗濯物が乾くと取り込んで畳んでくださるご利用者がいます。ご利用者は職員に承諾してもらってから取り込みですが、お願いしてやっていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	姪っ子さんと法務局に出かけていき持ち家の名義変更の手続きをされていました。他ご利用者でマイナンバーカードを作り家族といかれた際は高齢者ということで市役所での手続きはドライブスルーでできたと言って安堵されていました。	昼食後に口腔ケアとトイレを済ませてから散歩に出かけるのが日課で、事業所の周辺を20分程度かけてひと回りしている。好天であっても強風や気温が低い時は中止している。眼科等の専門医への受診の際には、家族との外出機会がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていらっしゃるご利用者は身内と外出時に買い物をしてきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者自身が電話を希望されたり手紙を書いたりすることは声をかけても困難です。母の日に贈り物があると送り先にお電話をつなげお話しできるように支援しました。又、きましたお手紙などはご本人に直接渡し居室で読まれている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関下駄箱の上には季節の花を生けるようにしています。中庭には落葉樹が植えられ四季の様子を感じ取ることができます	居間のテーブルでは、皆で洗濯物を畳んだりレクリエーションを楽しんだりしている。大きめのサーキュレーターで部屋の中央付近の空気を拡散し、有効的な換気を行っている。中庭の落葉樹や地に根付いた大株のポインセチアが、毎年季節の移り変わりを知らせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は居住していた地域が同じで旧知の仲間座っている雰囲気は、シェアハウスのようなものです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫の位牌、お気に入りの毛布、ベッドシーツを持ち込まれています。	入口に表札代わりの暖簾を掛けている。お気に入りのぬいぐるみをお気に入りの場所に置いている。利用者の写真をまとめた個人アルバムが各居室にあり、いつでも見ることができる。衣替えは季節毎に職員が行い、季節外れの衣類はリネン庫で保管している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特にトイレの場所が分かるようにドア外に大きい字で掲示されています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡県清水区西久保1-13-26		
自己評価作成日	令和6年 1 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和6年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 2月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春に新型コロナ感染が蔓延し施設内療養となり職員の感染蔓延防止、感染者へのケアに注力し結果感染症への対応策が身につきました。5月からは新型コロナ感染症も5類に引き下げられたこともあり地域の祭事への参加、ご利用者の面会、外出の緩和ができるようになり途切れがちだった遠方のご家族との触れ合いができるようになったことや絆の深まりも増しました。認知症の人にも希望を持って暮らせるよう1人ひとりの持っている力を表せる場を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍ではありますが5類に移行してからは地域の祭事が復活、2月3日の節分祭に地域の住民(子供も含む)が豆まきが行われる神社を目指しながらホームに立ち寄ってもらおう企画に参加を予定しています。(地域のボランティア達の企画)		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は、長年にわたりボランティアで地の神様が祭られている神社の総代を勤めさせていただいてます。地域の祭事も活発に行われるようになり地域の住民との交流も活発に行われています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症を取り巻く環境(家庭環境、、介護者、サービス内容等)の現状や課題が話し合われることがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加者からご利用者の情報提供をいただくこともあります。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年秋から介護相談員が月に1回来所されるようになりました。1時間半近い滞在でケアの実際についてご助言をいただくことがある。現状についてお話しさせていただいている。市の介護保険課には運営推進会議参加を議題を掲示しお誘いはしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修も続けており概ね3カ月に1回基本方針について確認をしながら拘束をしないケアの取り組みを話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員には動画ですが、虐待場面を視聴してもらい研修報告をしてもらっています。報告の中には自分自身のケアの見返りをされている者も見受けられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者様があります。定期的に後見人さんが来所していただき職員から日頃の生活について話を聴きとっていかれます。対応した職員は後見人制度、存在について理解が深まっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すぐに入所先を決めなければならないご利用者、ご家族に対し経済的な事情を充分にお聞きし担当ケアマネに特養の検索の協力をいただき一時入所としてお引き受けしました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に運営推進会議への参加を勧めることで外部参加者へ意見や要望を表せる機会を作りました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤者は年2回の賞与が出る際に代表者と面接し意見や提案を聴くようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年より介護助手(調理担当、清掃、ご利用者の見守り)を雇い入れることで職員が介護に集中できる環境を整えつつあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を持たない職員に対し認知症基礎研修受講を手伝いました。(ネット環境の知識がないので)以外は、初任者研修受講中の職員がいます。管理者は社会福祉士指導者研修を受講予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設で外部評価調査員研修の受け入れをさせていただきましたところ外部の同業者と交流する機会を持つことができました。運営に役に立つ情報もいただきました。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護者であった？夫が入院し1人では暮らしていけないご利用者が緊急に入所することになりました。家では歩行が不安定で転倒を繰り返していました。歩行器の準備、トイレ、洗面所、テーブル席の導線を確保することですぐに馴染むことができました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	高齢者夫婦での暮らしで疎遠になっていたご家族が入所の支度をしなければならませんでした。不足するものは施設側のものを利用することで転倒予防にもなりました。又、家ではトイレの失敗が多く下着の交換もままならなかったのですが、定時でトイレに誘導したりご本人の希望する時にトイレに誘導することで失敗はほとんどなくなりました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要するご利用者の入所にあたり担当医の交代をしていただかなければならませんでした。しかし紹介状が準備できない事情を往診医に説明し担当ケアマネの情報、内服手帳所持で交渉し往診医が診察を快諾してくださり入所を早めることができました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食後、汚れた食器洗いをご自分の仕事として進んでやったださるご利用者がいます。食事の皮むき、清掃、洗濯ものをたたむ等は職員だけでやってしまわず一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所という選択を選ばれることになり今でももう少し家で看れたのではないかと不憫に思う気持ちを尊重した対応を心がけています。長年、ご家族が希望していた病院での手術、受診への度重なる外出を快諾しました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の中には家族、友人と食事や旅行へと出かけていきました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者それぞれの性格、コミュニケーション能力も判断したうえでフロア席の配置を決めさせていただいています。もちろんご利用者の希望も考慮しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣に住む高齢者夫婦、夫を当施設で看取りをしましたが、残された独居の妻が外出している姿を見かけた際は声をかけさせていただいています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望の強いご利用者が居ます。徘徊は帰宅願望で出口を探しています。タイミングを窺って話しかけることでこだわりをそらしたり時には外に出て行こうとされる際に同行しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の相談があった際にご家族、ご本人、担当ケアマネ、キーパーソンから生活歴、入所の動機、生活の意向等聞き取りを行うと情報を書面にして職員に回覧、入所中でも新たな情報があると同様な方法で情報把握に努めてもらっています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務メモ、日誌への記入、各勤務帯へと1日3回の引継ぎでご利用者の様子を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングは職員にお願いしています。その中で課題が出てくると毎日の引継ぎの中でアイデアが出ることがありケアに反映されることがあります		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎ時にご利用者の課題が出てきた際に暫定で介護内容の変更があります。暫く変更した内容で介護を行っていたら評価し継続ケアとすることがあります		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の面会はウイルス感染防止のため個室への出入りは遠慮いただき玄関内をお願いいただいています。しかし居室で休まれていることが多いご利用者への面会は居室内に案内しご利用者に会っていただくようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	腕時計をされているご利用者の電池がなくなり止まってしまいました。時計が動かない不安を訴えていました。修理していた時計屋さんが廃業してしまい困っていたご家族に近隣の時計修理をしているお店を紹介しすぐに出向いて修理していただきました。ご利用者も動く時計を腕に着けて安堵されていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は訪問診療医が嘱託医としてお願いしています。眼科はご家族、ご利用者が納得された病院に通院されています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師です。日々の食事、排泄状況、バイタルサインチェックを把握、状態に関して介護職員からの報告を受け必要とあれば嘱託医に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は入退院したご利用者はありませんでした		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に契約する時点で重度化した場合のホームの指針をお話しし同意を頂ける方には書面で署名をいただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	擦り傷や切り傷、内出血時の処置については訓練されています。急変時はベッドへの臥床、窒息予防、バイタルサインのチェック、看護職への報告ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の事業継承計画作成が終盤に来ている中で地域自治会長との話し合いが継続中です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際、室内で休まれていたりくつろいでいらっしゃるご利用者に対し入退室の声掛けを必ずするようにしています。声掛けの語調にも注意して接するようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	帰宅願望が強く徘徊されるご利用者がいます。徘徊する理由を理解して接するように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで体操をしたりパズルをして過ごされています。お部屋で終日ラジオを聴いて過ごしているご利用者もいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着換えを用意する際に強いこだわりを持っていらっしゃる方にはご自身の希望に沿うようにしています。洗顔後の基礎化粧品は、ご希望の物を用意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎや野菜の皮むきをしてもらっていますが、皮むきはピューラーの使い方に慣れておらず包丁を使うことできれいな皮むきができていました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の咀嚼、嚥下状況に応じて食事の形態、刻みの程度、トロミを利用したり加減をしながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導の下洗口液でのうがいを支援するご利用者、歯磨き後の磨き残しや歯間ブラシ利用のお手伝い等お口の中の様子で1人ひとりの対応が違います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表があります。タイミングを観てトイレへの誘導を行っている方もいます。夜間、トイレの起床もなくパッドの交換を強く拒否するご利用者は就寝後から起床時迄横漏れしないようなパッドの対応をさせていただいているご利用者もいます		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食食にヨーグルト+バナナをデザートとして毎日摂っていただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性職員の介助を希望されるご利用者は配慮しています。拒否されるご利用者は一番に声掛けをさせていただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中うとうとししまうご利用者は居室で休むようにしています。なるべく夕方から寝てしまわないようフロアで起きていてくださるような活動を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの内服薬の効能については個別の介護記録にファイルされ何時でも閲覧できている。薬が変更になった際は引継ぎされることで内容の把握ができるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の残されている力の中で食事の支度(野菜の皮むき、カット)お菓子の盛り付け、を職員とともにを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時は昼食後散歩に出かけています。入所前に通っていた美容院にご家族と通われていたこともあります		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している又は、使いたいご利用者は居ません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話を掛けたり手紙を書かれる方は居ませんがホームに届きました便りは各居室の壁面に貼られています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関下駄箱の上には季節の花を生けるようにしています。中庭には落葉樹が植えられ四季の様子を感じ取ることができます		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とフロアーを出入りされフロアーではテレビのリモコンを操作されご自分の気に入った番組をご覧になられています。気の合ったご利用者どおしが居室で話し込まれている姿を見かけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドに敷くシーツ、ベッド周囲はご自分が決めた位置に日用品がおかれていたり亡き夫の位牌がご利用者の目の届く場所に置かれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特にトイレの場所が分かるようにドア外に大きい字で掲示されています。		